

に、TAE が27例に施行された。50才台の男が最も多く、初発症状では、腹痛29、吐血6、腹腔内出血4、検診が13例などでした。肝機能 (ICG 等) の良好例の予後はかえって不良例よりも悪く (癌の大きさと ICG 値は逆相関した)、慎重に経過観察されている肝硬変症患者と、それ以外の差は明瞭で、胃癌なみの検診体制の確立の必要性が痛感された。予後と相関のあった項目は、GOT, LDH,  $\gamma$ -GPT, 検診例 ChE, Child 分類, リンパ球数, 癌の大きさ, 門脈塞栓, TAE の有る無し, 吐血例などで、肝硬変の有る無し, 血小板, GPT, ヘパトプラスチンテスト, GPT, AFP などは予後との関係はありませんでした。切除例で最長8年, TAE で最長3年の生存例があります。腹腔内出血例4例のうち2例は生存中です。治療法も併せ持つ血管造影が、診断では最も重要でした。

10. 急性肺炎様の経過を呈した若年膵癌の1例

杉村 一仁・渡辺 俊明	（新潟大学医学部 第三内科）
阿部 実・成澤林 太郎	
野本 実・尾崎 俊彦	（新潟大学医学部 第三内科）
上村 朝輝・市田 文弘	
中村 茂樹・岡村 直孝	（同 第一外科）
川合 千尋・吉田 奎介	

症例は28才の男性。主訴は、下腹部膨満感、腰痛、下痢であった。現病歴は、昭和61年1月中旬より急性肺炎様の腹痛が出現し、下旬から下腹部膨満感、2月末より腰痛が加わって来たため当科受診し、主膵管の拡張と膵尾部の嚢胞を指摘され当科入院となった。入院時身体所見で左側腹部圧痛がみられ、検査所見上、膵酵素と腫瘍マーカーの著明な上昇を認めた。画像所見にて、膵のびまん性の肥厚、主膵管の閉塞とその末梢の拡張、門脈の閉塞と側副血行路の形成がみられたが、明らかな腫瘍は指摘されなかった。急性肺炎として治療し、一時腫瘍マーカーは低下したが、その後嚢胞が増大し腫瘍マーカーも上昇したため外科治療を行なった。手術所見では膵頭部から体部に高分化型腺癌とその肝転移を認め、姑息的に嚢胞減圧術と胆道ドレナージを施行した。本例は、年令、臨床経過などから、術前、診断確定が困難であり、疫学的に比較的可能な症例と思われる報告した。

11. 巨大な腫瘍を形成し治療切除可能であった膵頭部癌の1例

土田 正則・前田 長生	（村上病院 外科）
村山 裕一・清水 春夫	
土屋 嘉昭・清水 武昭	（信楽園病院 外科）
内田 克之・渡辺 英伸	（新潟大学 第一病理）

症例は55歳男性で本年5月22日腹部腫瘍を主訴として来院した。自覚症状はなく右上腹部に表面平滑、弾性硬の手拳大の腫瘍を触知した。入院時検査では CEA が19ng/ml と高値を示した他、異常所見は認めなかった。腹部超音波検査および CT 検査にて肝下面に接した径11cm の腫瘍を認めた。上腹部消化管造影では胃前庭部の後下方よりの圧排と十二指腸窓の著明な開大を認め膵頭部由来の腫瘍が疑われた。超選択的腹腔動脈造影では腫瘍血管の増生と濃染像を認め、膵外腫瘍形成型の膵癌と診断し、横行結腸切除を伴う膵頭十二指腸切除にて巨大な腫瘍を摘出し得た。腫瘍は9×9×6.5cm で総重量は1050gr、剖面は黄白色充実性で一部に壊死、出血巣を認め病理診断にて非機能性島細胞癌であった。リンパ節転移は認めなかった。膵外腫瘍形成型の巨大な膵癌の切除例は最近5年間の国内の報告では僅か数例であり、非機能性島細胞癌の切除例はなく、本症例は極めて希な1例と考えられた。

12. 転移性膵癌の2症例

早川 晃史・本間 照明	（新潟市民病院 消化器科）
月岡 恵・佐藤 明	
何 汝朝・木村 明	（同 病理）
岡崎 悦夫	

症例1. 64才女性。41才時に腎細胞癌にて左腎摘除・放射線照射。5年来の胃部不快感にて受診。諸検査にて血管性に富む膵腫瘍を指摘。試験開腹施行、膵体尾部及近傍リンパ節に一塊となった硬腫瘍を認め、組織生検により腎細胞癌と診断。腎摘出後約23年を経て膵後腹膜転移として再発を指摘された腎細胞癌の一例と考えられた。

症例2. 66才男性。約3ヶ月前よりの咳嗽・痰・全身倦怠・リンパ節腫大にて受診。リンパ節生検より腺癌が得られたが TBLB にては扁平上皮癌の診断、放射線照射等施行するも死亡。剖検にて肺・胃・膵・肝に小細胞癌・肺に扁平上皮癌、胃に腺癌と、同時に発見された triple cancer の一例であった。

13. 当院で経験された胆嚢腺筋症

加村 毅・羽賀 正人	（下越病院 内科）
安達 哲夫・山川 良一	（同 外科）
五十嵐 修	
樋口 正身	（同 病理）

当院で経験された胆嚢腺筋症10例及び術前に腺筋症と診断された胆嚢癌2例につき検討した。腺筋症の手術時年齢は35歳から73歳までで平均53.4歳であり、男女比は1:1であった。また10例中9例が胆石を合併していた。segmental type 7例, fundic type 2例, diffuse type

1例であった。5例は腺筋症、1例は癌と診断し、他4例は壁病変を診断できなかった。術前腺筋症とされた癌2例は、いずれも segmental type の腺筋症と診断されていた。

現在の画像診断では腺筋症の Rokitansky-Aschoff 洞の描出は確実でなく、癌との表面性状の差の描出も困難な場合があり、今後の鑑別診断上の課題と思われた。

#### 14. 胃癌、大腸癌、胆道癌の総合癌検診

齊藤 征史・加藤 俊幸 (県立ガンセンタ)  
丹羽 正之・小越 和栄 (一新潟病院内科)  
加藤 清・佐々木寿英 (同 外科)  
島田 寛治・赤井 貞彦  
阿部 礼男 (同 泌尿器科)

胃集検受診者を対象に腹部超音波検査、肝機能検査 (GOT・GPT・ALP)、便潜血反応検査 (ヘモカルトスライド旧法) による肝臓癌・胆道癌・膵臓癌・大腸癌・胃癌の総合癌検診を行った。受診者は男性 681 人、女性 1,687 人で合計 2,368 人である。男女比は 1:2.5 と女性に多く、年齢は 40 才以上が 91.8% を占め平均年齢は 55.7 ± 11.9 才である。1 次検診異常者数は腹部超音波: 193/2352 例 (8.2%)、肝機能検査: 163/2327 例 (7.0%)、便潜血反応: 228/1856 例 (12.3%)、胃間接撮影検査: 234/2325 例 (10.1%) で精密検査受診は各々 90.4%, 90.2%, 81.1%, 98.7% で便潜血反応検査以外は 90% 以上の高受診率である。精密検査の結果、胃癌 8 例 (0.34%)、胆のう癌 2 例 (0.09%)、大腸癌 7 例 (0.38%) を発見できた。以上総合癌検診は極めて有用であったが方法論に関しては改良が必要である。

#### 15. 総胆管拡張症に合併した胆嚢準早期癌の 1 切除例

登坂 尚志・松浦 徳雄 (巻町国保病院)  
阿部 三郎 (同 外科)  
今井勝十郎 (岩室温泉病院)  
丹羽 正之 (県立ガンセンタ)  
加藤 清 (同 外科)

症例は 62 才の女。総合癌検診のエコーで、胆嚢ポリープを発見され、来院した。既往歴にも特記事項を認めず、諸検査成績にも異常を認めなかった。当院のエコーでは、横径 14mm・高さ 12mm の鏡餅型の隆起を認め、広基性である事や大きさの点から悪性を疑った。

DIC で総胆管の著明な拡張を認め、ERCP を施行、膵管胆管合流異常 (膵管合流型) を伴った先天性胆道拡張症と判明した。胆嚢切除と、胆管切除、肝床切除、R<sub>2</sub> 郭清、肝管空腸吻合 Roux-Y を行なった。胆嚢内胆汁のアミラーゼは採取後半日以上たって測定した為か、2720 キャロウェイ 単位だった。癌は胆嚢底部にあり、肉眼型は IIa + IIb、広さは 53 × 60mm、深達度は大部分は粘膜内癌であったが、一部でロキタンスキール・アショフ・ジヌスより漿膜下に浸潤していた。総胆管は直径 5cm と著明に拡張して、内圧は 45mm H<sub>2</sub>O、胆管内胆汁のアミラーゼは 5700 単位だった。

#### 16. 経皮経肝胆道内視鏡 (PTCS) ならびに経皮経胆嚢内視鏡 (PTCCS) の診断面における有用性の検討

川口 英弘・吉田 奎介  
佐藤 攻・土屋 嘉昭  
白井 良夫・福田 善一 (新潟大学医学部)  
篠川 主・伊賀 芳朗 (第一外科)  
岡村 直孝・武藤 輝一  
内田 克之・渡辺 英伸 (同 第一病理)

最近 4 年 6 か月間に経験した PTCS ならびに PTCCS の診断面における有用性を検討し以下の結論を得た。なお肝内結石症では治療面での意義が大きく今回の検討から除外した。PTCS 施行例中 ① 乳頭状隆起を示す胆管癌症例では、癌の表層拡大の範囲を決定でき有用であった。② 壁不整を伴う先天性総胆管拡張症や肝嚢胞性疾患に対しては悪性病変合併の有無が診断可能であり有用であった。PTCCS は、腫瘍が胆嚢頸部から胆嚢管付近に存在する胆嚢癌症例にのみ適応とし、その占居部位を決定し妥当な術式を選択することを目的としたが、胆嚢管への浸潤の有無の判定は内視鏡所見からだけでは難しく、今後の課題と考えられた。胆嚢隆起性病変に対しては、術中胆嚢内視鏡 (OCCS) で良悪性の質的診断や占居部位の決定が可能であり、手術症例においては有用な方法であろうと思われ、今後、症例を重ね、本法の適応と有用性についても検討していく方針である。

#### 特別講演

「胆嚢癌の発育進展について」

新潟大学第一病理学教室

教授 渡辺 英伸 先生